

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和3年度第4回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和4年3月29日（火）午前11時5分から正午まで
- 3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
  - (1) 委員 小野俊次会長、渡邊かおり副会長、角田フミコ委員、小野祐哉委員  
松田正敏委員、伊藤秀司委員、佐々木義夫委員
  - (2) 事務局 美里町長寿支援課 横山太一、菅井晶  
美里町社会福祉協議会 山口保宏、永沼威雄、高橋ゆかり  
青木真理
- 5 議題
  - (1) 開 会
  - (2) 会議録署名委員の選出
  - (3) 報 告
    - ①令和3年度美里町生活支援体制整備事業の取組状況について
    - ②令和4年度美里町生活支援体制整備事業の取組(案)について
  - (4) 協議事項
    - ①見守りあいについて
    - ②その他
- 6 会議の公開・非公開の別  
公開
- 7 非公開の理由
- 8 傍聴人の人数  
0人

## 9 会議の概要

### ・会議録署名委員の選出

小野俊次委員、角田フミコ委員

#### (1) 報告事項における詳細な意見

① 令和3年度美里町生活支援体制整備事業の取組状況について事務局高橋より説明。
(特に意見無し)
② 令和4年度美里町生活支援体制整備事業の取組(案)について事務局高橋より説明
(特に意見無し)

#### (2) 協議事項における詳細な意見

見守りあいについて、意見交換を行った。

##### <課題>

- ・まわりからは見守りが必要と思うが、本人からは必要ないと言われる。
- ・あんしんネットワークという事業を活用するには、本人と見守りする側の両方の理解が必要になる。
- ・見守る側も80代の高齢者である。
- ・あんしんネットワークの協力者としての責任や負担が発生しないかと、躊躇される。
- ・高齢世帯が多くなってきており、あんしんネットワークの協力者を見つけることが大変になっている。
- ・日中独居の高齢者も多くなっている。
- ・あんしんネットワーク事業は行政区長や民生委員は知っているが、介護サービス事業所等の従事者は知らない。
- ・退職した男性が地域で活動していくことへの支援の検討が必要である。

##### <課題に対しての意見>

- ・あんしんネットワークという事業だと本人の理解が必要になるので、理解の足りないさりげなく見守れる仕組みを作ってはどうか。
- ・実際には、あんしんネットワークに登録していない人を地域でさりげなく見守りしている。
- ・日中独居の高齢者の見守りまではできない。
- ・普段の近所づきあいや、日ごろお互い気にかけて生活することが必要だ。
- ・協力員を付けて見守る仕組みと、普段から気かけあう仕組みの二つが必要ではないか。
- ・見守りの方法が対象者によって変えられるように様々な方法があると、見守られ

る側も見守る側も負担がないのではないか。

<あんしんネットワーク事業について>

- ・対象年齢を75歳以上にしてはどうか。
- ・65歳以上で自宅にいる元気な方に協力員になってもらえると良い。
- ・年齢に限らず、必要な人を見守る体制が必要ではないか。

<コロナ禍による地域のお茶のみが減ったことによる影響>

- ・地域でどのように集まれるかを考えている。
- ・百歳体操は食事の準備等開催する側の負担がなくてよい。参加する側も気軽に参加でき、コミュニケーションがとれる。
- ・お茶飲み会の参加者と、百歳体操の参加者が異なる。お茶飲み会は独居でみんなですごしたい等という意識があり、百歳体操は運動がしたいという意識である。
- ・みんなに会いたいから百歳体操に来ている人がいる。そういう場所を私たちが提供したいが難しい。
- ・みんなが集まれる場所があることが、見守り等の機会になる。

<介護サービス事業所>

- ・自分で動けない人は、周りが支援すべきと考える。
- ・ヘルパー同志が利用者の情報共有をすることで見守りを行っている。

(正午 終了)

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 4年 5月 20日

委員 小野 俊次

委員 窪田 7ミコ

